



第79号

2018. 8. 8

(公社)津法人会 青年部会

津市広明町121番地

津税理士会館4階

TEL(059)225-1302

<http://www1.mint.or.jp/~hojinkai/seinenbu/>

## 提 言

## 「応仁の乱が発生したのは何年？」

応仁の乱とは、戦国時代の下剋上の幕開けとなった11年間のややこしい覇権争いです。では、応仁の乱が発生したのは何年だったか覚えていますか？学生時代、語呂合わせで年号を暗記したことを思い出します。知識やテクニックを学べば、高度経済成長時代、大量生産、大量消費による右肩上がりの中、知名度のある大学、皆が知っている企業への就職することが、多くの日本人のゴールでもありました。

しかし近頃は、「応仁の乱はなぜ起こったのでしょうか？」や、更に進んで、「応仁の乱を防ぐためにあなたならどうしますか？」といった答えのない課題を与える考え方に指導方法も変化しているようです。

それは、人工知能やITによる技術革新により、将来のニーズを予測することが困難な時代だからです。そのような時代で生きていくには、個別の知識や技能を『どう活用するか』といった応用力がないと、新しい価値が生み出せず、進化の波についてゆけないためです。

また、短期留学・語学留学、海外インターンシップなど高校生、大学生の留学数は年々増加しています。留学プログラムや奨学金が増えてきていることや、グローバル化が進む中で海外に関心を持

ち、将来に備えようとする学生が増えてきています。私の娘も小学生の時、シドニーやロスアンゼルスにホームステイを経験しました。一度でも体験すると病みつきになるようで、中学二年になるこの夏も二週間カナダのカルガリーでの語学留学を予定しています。日本と外国との文化や習慣の違いを学んだり、自立心や積極性を養ういい機会になると考えています。国自体も、トビタテ！留学JAPANとして積極的に推進し、企業や個人からの寄付を集めた奨学金制度も増やして来ているので、子育て世代には関心事かと思えます。

以前にはなかったGOOGLEやAMAZON、NETFLIXなど新しい価値を持った企業が急速に成長する時代、リーダーシップや判断力を持ち、未来を切り拓いてゆける教育が現在の教育に求められています。皆さんの会社でも、情報や知識をたくさん持っている人よりも、それをうまく利用できる人を望まれていませんか？。カメラと電話とPCをうまくくっ付けてiPhoneが出来たAPPLEのように…

そして最後に応仁の乱の答えは1467年です。私にとって忘れてもあまり問題ではありません。GOOGLEで検索すると約410,000件が0.39秒で検索できました。

# (公社)津法人会青年部会定時総会開催される

5月25日、津税務署 署長 飯田敏博 様をはじめとする多くの来賓のご臨席を賜り、津都ホテルにおいて平成30年度の定時総会が開催されました。亀井部会長を議長とし、その進行の下、平成29年度の事業報告および収支決算と、平成30年度の事業計画および収支予算が報告されました。

## ■平成30年度基本方針 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

よき経営者を目指すものの団体として、会員の積極的な自己啓発を支援し、納税意識の向上と企業経営及び社会の健全な発展に繋がる事業を行っていきます。

公益法人として、租税教育、講演会研修会の一般公開を中心とした地域貢献活動にもさらに力を入れ、また会員交流も積極的に行います。

### 1. 会員研修

会員の自己啓発を支援し、企業経営の健全な発展に繋がる研修を行います。

### 2. 税制研修

正しい税の知識を身につけ、納税意識の向上を目指し研修会を行います。また、「e-Tax」の普及推進に努めます。

### 3. 会員拡大

会の存続・発展に繋がる積極的な会員拡大を行います。

### 4. 会員親睦

信頼できる仲間作りを目指し、会員親睦の機会をつくっていきます。

### 5. 広報

広報誌である「はげみ」とインターネットのホームページを通じて法人会青年部会活動の広報を行います。

### 6. 関連団体

本会事業への参加並びに三重県法連、東海法連、全法連の各種事業へ参加し連携を深めるとともに、青年部事業活動への参考とします。

### 7. その他

必要に応じて上記の基本方針を達成するための事業を行います。

月	行 事	本 会
4月		
5月	総会 (25日)	総会(25日)
6月	広報誌「はげみ」発行	
7月	研修会	
8月	親睦ボウリング大会	
9月	研修会	租 税 教 育 事 業
10月		
11月	社会貢献事業 全国青年の集い岐阜大会 (8、9日)	
12月	12月例会 広報誌「はげみ」発行	
1月	新年交流会	
2月	研修会	
3月		
役員会は毎月開催 HP更新は随時 地 域 貢 献 事 業		

## ■平成30年度予算 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

### (1)収入の部

(円)

項 目	予 算 額	備 考
会 費 収 入	930,000	
行 事 収 入	835,000	各種事業収入
本 会 助 成 金	500,000	
雑 収 入	1,000	
合 計	2,266,000	

### (2)支出の部

(円)

項 目	予 算 額	備 考
事 業 費	1,480,000	
広 報 費	390,000	広報誌等
会 議 費	300,000	
雑 費	26,000	
予 備 費	70,000	
合 計	2,266,000	

# 記念講演会

日 時：平成30年 5月25日(金) 15:00~16:30  
場 所：津都ホテル

## 「人工知能の可能性」 ～自動運転車からロボットの感情まで～

**講 師** 人工知能学者・国立大学法人電気通信大学  
大学院教授 **坂本 真樹 氏**



本年度の記念講演会は、人工知能学者で国立大学法人電気通信大学大学院教授の坂本真樹先生にお越し頂き、人工知能の可能性について講義いただきました。

坂本先生はテレビ番組にもコメンテーターとして多数出演されてみえるだけあって、非常にわかりやすくお話いただきました。講演に参加された一般の方々もうなずきながら熱心に聞き入っていました。

一昔前では人工知能(AI)とは普段の生活にはあまり関わりのないコンピュータの一部の様なイメージでしたが、現在では非常に身近なところに溢れているとの事でした。

様々な種類やレベルに分かれています。ルンバや空気清浄機から将棋ゲーム、フェイスブックなどのアプリにある画像(顔写真)の認識機能など、あまり意識していなかったのですがいろんな所にAIが組み込まれていました。

今、話題になっている自動車の自動運転機能もAIの進化なしには完成しないと言われております。ドライバー不足が問題となっている今、AIは単なる便利機能ではなく生活に無くてはならない必須機能になってきていると感じました。

さらにはディープラーニング(深層学習)によりコンピュータが自分で学習出来る様にまでなっ

てきているそうです。

世界一のロボット大国といわれる日本ですので最新のAIとロボットを組合せれば、介護や医療の現場で表情や感情の理解が出来る人工知能をもったロボットや、汎用AIの完成形ともいわれる、個性を持ちコミュニケーションが取れるドラえもんのようなロボットが出来るかもしれないそうです。これからどんなAIが出来てくるのか非常に楽しみになりました。

坂本先生、喉の調子が良くないとの事でしたがとても素晴らしい講演、本当にありがとうございました。



## 本年度卒業される方 (順不同・敬称略)

- |       |      |         |
|-------|------|---------|
| 久保井 仁 | 有限会社 | 久保井工業   |
| 伊藤 昌治 | 有限会社 | 第一プリント社 |
| 横山 浩之 | 大陽板金 | 株式会社    |
| 田村 頼一 | 日本土建 | 株式会社    |
| 米倉 大策 | 株式会社 | ハートランド  |
| 藤川 博  | 株式会社 | 藤川工務店   |
| 小田 康之 | 丸栄食品 | 株式会社    |
| 落合 賢治 | 丸栄木材 | 株式会社    |
| 山口 英樹 | 株式会社 | 山博運送    |



# 租税教育活動報告

## 養正 小学校

平成29年11月30日、平成29年度最初となる租税教室を、養正小学校にて開催しました。

今回、より解りやすく、より身近に「税」を知ってもらうため説明資料の改定をおこないました。難しい語句をなるべく使わず、税金で建設された公共施設の写真を「サオリーナ」等に変更しました。昨年より児童の皆さんに「税」の仕組みを理解していただけたと思います。

“一億円のレプリカ”や、“シロモチくん”の登場は今年も大好評で、“シロモチくん”はかなりお疲れでした。

説明資料の改定や、今年度最初の租税教室でしたので講師をしていただいたメンバーにやや緊張感がありましたが、亀井部会長の「こんにちわーす」という挨拶で雰囲気も和み、次の租税教室に繋がる有意義な時間となりました。



## 明合 小学校

12月7日、安濃町の明合小学校にて租税教室を開催しました。3年目ということで、校長先生をはじめ、先生方にも大変深いご理解をいただいております、恵まれた環境での実施となりました。5年生の

みなさんにとっては人生初めての本格的な税に関する授業になるということで責任重大でしたが、児童の高い参加意識と講師の頑張りでも無事に終了することが出来ました。まだまだ改善しなければならないところもありますが少しずつ経験を重ね、いつの日か児童たちの心に残るような教室を開催できるようになればと思います。



## 倭 小学校

倭小学校の校長先生が、以前の赴任先である三重大学附属小学校でもお世話になったご縁もあり、和やかな歓迎ムードで租税教育を始めることができました。

児童（5年生14名）の皆さんも積極的に参加してもらえ、のびのびとした教育環境であると感じました。授業後には低学年の皆さんとシロモチ君のふれあう時間も十分に配慮いただきました。来年以降も楽しみにしていただけたら幸いです。



## 三重大学 教育学部 附属小学校

平成29年12月12日（火）に三重大学教育学部附属小学校にて、今年度4回目の租税教室を開催しました。対象は小学5年生の3クラス・100名の子どもたちで、青年部会からは6名と“シロモチくん”が参加しました。最初は緊張していた児童たちも少しずつ慣れてきて、シロモチ君の登場でさらに大盛り上がり。積極的に

発言してくれる子どもも多く、終始なごやかな雰囲気で行われ、最後に一人ずつ全員に1億円を持ってもらい、その重さも実感してもらいました。児童の人数も多かったのですが、運営側の人数もこの日は多かったためスムーズな運営で、4回目の租税教育も大成功に終わりました。



## ハッ山 小学校

12月14日(木)、ハッ山小学校の5年生と4年生の14名に青年部会5名と“シロモチくん”のメンバーにて租税教室を実施しました。

ハッ山小学校は、5年生の児童数が少なく4年生との複式学級ということで4年生の子どもたちにも授業を受けてもらうこととなりました。

まず担任の先生の挨拶があり、その後特別教室で授業を始めました。最初のあたりは子どもたちも少し緊張している様子でしたが、クイズをする頃には、児童全員がにぎやかな雰囲気となり、“シロモチくん”や“一億円のレプリカ”の登場の時には、大きな歓声があがりました。授業のあとは、低学年の子どもたちと一緒に“シロモチくん”とふれあいの時間もあり、楽しい時間を過ごしました。



## 成美 小学校

1月26日(金)久居駅前に位置する成美小学校の5年生3クラス70名に租税教室を実施しました。昨年は1クラスずつ3回にわけて授業を行いました。

今年は大きな教室で5年生一斉に行いました。人数が多いこともあり、クイズもいろんな回答があり、にぎやかな時間となりました。この日はたまたまフリー参観ということで保護者の方にも我々の取り組みを聞いていただき、また活動を見ていただける事となり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

最後に“シロモチくん”と一緒に記念撮影をし、いい思い出も作ってもらえたと思います。

当日は雪もちらつく寒い日でしたが、子どもたちの元気に私たちもたくさんの元気をいただきました。



## 一身田 小学校

今回で4回目の一身体小学校は、本年度租税教室最多の104人の生徒を対象に広い体育館中、メンバーは寒さと闘いながら開催しました。

児童たちも寒かったでしょうが、アニメの後の質問にも積極的に手を挙げて、答えられました。

「1億円」と共に登場するゆるキャラはレギュラーメンバーの“シロモチくん”に加えて一身田の“しん坊くん”も登場し、大いに盛り上がり、終了後も触れ合う時間が取れ、大成功に終わることができました。



## 櫛形 小学校

今回初の櫛形小学校では、図書ルームを会場に16人を対象に開催しました。

いつもの50インチ液晶ではなく、大型モニターだったので、スピーカーの音は少し小さかったのですが、児童は真剣にアニメを見てくれました。

開催後は、全学年の生徒がゆるキャラ「シロモチくん」と触れ合うことが出来て、児童も先生も大満足だったと思います。

5年生の先生が、自分の同級生だったことも何かのご縁を感じてしまいました。



### 新町 小学校

1月18日(木)、津市立新町小学校にて5年生の2クラス71名を対象に租税教室を行いました。校舎に足を踏み入れると、廊下ですれ違う子供たちが元気に挨拶をしてくれて、清々しい気持ちで授業に向かいました。新町小学校は我が母校という事で少し肩に力が入ってしまい、時間が押し気味となってしまいましたが、皆が熱心に聞いてくれました。“シロモチくん”や“1億円レプリカ”はやはり人気で、子供たちも大喜びであったことが印象的でした。我々だけでなく、子供たちにとっても印象に残る授業であってくれたら嬉しいなと思います。



### 明 小学校

平成30年1月18日に明小学校の5年生10人を対象とした租税教室を実施致しました。今回は、少数精鋭の4人での実施となりましたが、今年度の租税教育活動も終盤ということもあり、つつがなく進行することが出来ました。また、子供たちの授業に関する関心も高く、積極的な発言も目立ち、非常に雰囲気よかったです。

また、本年度の租税教育よりシナリオ終盤を大幅に変更致しました。本年度の租税教室の雰囲気を見て、子供たちの話の理解度が以前よりも高いように感じ、また、進行に余裕もできたので、“シロモチくん”との交流時間もとることが出来ていることが今後租税教育の理解を広げていくうえでもとてもよいことだと感じております。



### 藤水 小学校

2月2日に今年度最後の租税教室を津市立藤水小学校の5年生、63名に行いました。今回青年部からは7名と“シロモチくん”の参加でした。部会長の母校ということで、挨拶も税金の大切さはもちろん、昔の小学校の様子などを話されていました。

租税教育も順調に進行していき、質問しても、それまでおとなしめだった児童たちでしたがクイズの途中に突然現れた“シロモチくん”と“1億円”の登場に大興奮。

授業も一気に盛り上がりました。その後も児童たちは授業を熱心に聞き、税金の大切さ、思いやりの心を理解してくれたと思います。この調子で次年度の租税教育活動も頑張っていきたいと思っております。



## 租税教育活動

## 津市教育委員会・ 三重大学附属小学校贈呈式

2月28日、租税教室の授業風景写真が入った下敷と租税教育用冊子を、津市内の小学5年生全員にお渡ししていただけるよう、倉田教育長、石井附属小学校教頭に、それぞれ贈呈させていただきました。

下敷には、税金で建てられた「サオリーナ」などの施設の写真も掲載されており、児童の皆さんにとって、「税」の使い道がとてもわかりやすく、次年度も租税教室の開催をお願いしたいという、青年部会にとって励みとなるお言葉をいただきました。



▲ 津市教育委員会にて

◀ 附属小学校にて

# 2月研修例会

## 視察研修 福井

2月27日、2月研修例会『視察研修 福井』を開催致しました。

今回は福井県鯖江市にある一般社団法人福井県眼鏡協会の運営する『めがねミュージアム』に行ってきました。

福井県は日本製めがねの95%以上のシェアを誇る眼鏡の産地です。さまざまな生活用品に安価な海外製品があふれる中で、世界に誇る「Made In JAPAN」ブランドとして良質でかけ心地のいいめがねを世界に送り出している技術や歴史を学ぶことができました。

情報として聞くだけでなく、実際に見て触れて感じる事で、より歴史の重さや技術の継承の難しさを学ぶことが出来たと思えました。

会場では実際に造っているメガネも販売されており、眼鏡を使用されている方には評判も良くその場で購入されたメンバーもおられました。

今では、これまでの眼鏡造りで得た技術を電子機

器など他分野にも幅広く生かしているとの事です。

昼食は越前町にある「平成」さんにて越前カニ料理を頂きました。今年ご卒業されるメンバーも多数参加いただき、楽しい時間を過ごさせて頂きました。津法人会青年部会での良い思い出になればと思えました。



忙しい中、設営していただいた皆様、参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。



# 7月例会

## 『ニッポン一億総活躍プランと企業経営』 ～働き方改革に企業はどう向き合うのか～

日時：平成30年7月24日(火) 18:30~20:00

場所：アストプラザ4階 研修室A

講師 神戸学院大学 現代社会学部 現代社会学科

教授 中野 雅至 氏



7月24日アストプラザ研修室に於いて、津法人会青年部会7月例会を開催いたしました。

今回の7月例会は会員はもとより、津法人会青年部会会員拡大につなげるため、非会員も対象とした公開例会でした。

講演内容は「ニッポン一億総活躍プランと企業経営～働き方改革に企業はどう向き合うのか～」と題して、神戸学院大学教授 中野雅至氏をお招きし、今後の企業の在り方などを学びました。印象に残った内容は、高齢化・少子化が進む日本、今後の企業・経済を担う近年の若者の動向・思考・ライフスタイルなどをもとに、若者の離職率低下を防ぐ方法、また、これからの日本経済にとって外国人観光客誘致がいかに重要であるかなどを、三重県の観光地や話題なども交えながら余談も交えてご教授いただきました。

スライドを使用したり、質問形式をとりながら、会場を巻き込んだスタイルの講演はさすが大学教授。会場全体に笑いが絶えず、分かりやすく、楽しく学ばさせていただきました。

お忙しいなか、ご講演して下さった中野先生、設営にご協力いただいた皆さま、そしてご参加いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



# いきいきはげみ!

## 第29回

大学を卒業して広島で働き、津に戻ってから合気道を習い始めた。合気道は合気柔術や柔道、剣術などを源流としていて、大正～昭和初期に創られた。体格に関わらずに相手を制する技が多いことが特徴だ。

合気道にも流派は色々あると思うが、習った合気道には試合が無かった。練習では、こんな投げ技をしますよとか、右腕を極めますよとか、打ち合わせした投げ技や関節技を掛け合う、約束組手の様なことをすることが多かった。

たまに武器を使用することもあった。短刀や刀で襲われたことを想定して木刀を振り下ろされたり、それらを受け流したり掴ませて投げたりするために、杖（じょう）と呼ばれる太さ24mm＊長さ4尺の棒を使うこともあった。

関節技のほとんどは相手の骨を折るのが目的で、技を掛けられる方も準備がないと怪我をすることがある。掛ける方も折る手前で止めるし、投げ技も、相手が受身を取れる投げ方をする。木刀や杖も当てる間際に止める。あらかじめ打ち合わせした技以外はやらないが、それでも病院の世話になることがあった。

十分に気を付けても怪我を防げないことがある。日頃から道場には死ぬ覚悟で来いと言われていた。道着が白色なのは神前で行う武道であるほかに、白装束を意味しているのだと教えられた。それぐらい真剣な気持ちを作れということなのだろう。避けきれず、模造刀が刺されれば、ふさわしい衣装になるかもしれない。最近では他の武道で、白色ではない道着も見ることがあるが、それぞれの色に意味はあるのだろうか。

合気道の道着には袴もある。「段」を取ると黒帯と一緒に袴が授与される。それまでは上下白色の柔道着のような格好だ。技を掛けているときは上半身の動きに目をとらわれがちだが、下半身もしっかり使っている。技に入る前にも使っていたりする。

片足に体重をかけて体の軸をずらしていたり、踵を浮かせていたりして、技に入るのに有利な体勢を作っている。袴を着けると、そういった下半身の動作が相手に分かりにくくなり、自分に有利になる。

反面、暑い。道着の上につけるので、冬場は暖かいが夏場は暑い。エアコン設備の無い、備えていてもスイッチが入ることは無かったろうが、それほど風通しの良くない道場内は、人が集まれば夜でも30度を超えていた。

慣れるまでの辛抱と最初は我慢していたが、いつまで経っても暑かった。あるとき夏場は袴を着けなくても構いませんかと聞いたことがあるが、克己・忍耐の精神を話され許されなかった。

暑さを忘れるぐらい練習に集中することも大事かもしれないが、ふと気付けば目眩を起こしてい

ることも多い。なので、夏場、袴の下は、こっそり短パンだった。フラフラして受身を取り損なったり、身が入らなかつたりして、気持ちを作るための道着が怪我の原因となることになっては本末転倒だ。どんなことでも、無理な我慢を続ければ効率も悪く、得になることは無いと屁理屈をつけていた。こっそり着替えていたのでバレていなかったと思う。

試合が無かったと前述したが、先に攻撃する技も教わらなかった。技に入る前は相手に攻撃させていた。主に二人一組になり、腕や胸倉や、体のどこかを掴ませたり、「打ち」という手刀での打撃を受け流したりしてから技を掛け合っていた。

「掴ませた」と言ったが、「掴まれた」ではない。「掴まれた」は他律的、「掴ませた」は自律的。掴まれたことは、掴まれる行為を自分がさせているということ。「掴ませている」と言うのと操っているように聞こえるが、相手がすることを許可しているということ。「掴ませてあげている」と言った方が良いのかな。どちらにしても、まずは相手のしてくることを受け入れてから技に入っていた。自分から掴ませているので、いつでも技に入れる体勢も気持ちも準備が出来ている。

「打ち」から入る技の時も（こちら「打たせて」と考えるのだが）、掴ませたときと同様に、まずは受け入れる、打ってくることを許す。「打ち」から入る攻撃は、掴ませることより難しい。打たれる場所や打ってくる方向も多くあり、勢いも乗っているんで受けるには技量が必要である。受け損なうと痛い。木刀相手なら痛いでは済まない。それでも、まずは受け入れる。

技をかけるのも、掴まれた状態より難しい。打ってくる相手の呼吸に合わせないと途中で止まるか、技が成立しない。呼吸を合わすと言っても、重いものを持ち上げる時などに合わせる掛け声等とは違う。

技の完成形を「10」とするなら、相手に合わせて「10」にすること。例えば「8」の力で打たれたなら、受ける方は「2」の力を出す。受ける方も同じ様に「8」の力を出すと、衝突して技が成立しない。「1」の力しか出さないと受け流せず打たれて終わるし、相手以上の力を出すと攻撃している側になってしまう。力を出さない「0」は、相手をしないということで、打たせることを許した意味がない。

相手と衝突しない、ないがしろにもしない、受け入れる、受け入れ難いものでも受け入れてから対処するという。こんな考えを、合気道を通して思うようになった気がする。

人との付き合いに置き換えると、まずは相手の意見を聞く。話させる。明らかに自分に合わない考えでも、見当違いなことでも、相手が何を伝えたいかは理解出来るはず。最初から聞かない、相手にしない、聞き流すということはない。何を伝えたいのか理解した上で、自分の意見を返す。意見が違って衝突はしない。言い負かしたりもしない。相手の理解が得られないまま自分の意見を通さない。相手を尊重する…。こんなことを心掛けているが、夫婦喧嘩は無くならない。理想には遠い。